

007年度 ミクロ環境レジーム 第1回研究会議事録

平成19年7月25日(水)

14:00~17:00

26号館302号室

【出席者】(敬略称)

<環境エネルギー科>吉田

<政治経済学術院>寄本・鄭

<環境政策研究所>増原

<環境総合研究センター客員研究員>三田

<事務局>上野・土江

【協議事項】

1. 平成19年度の研究概要について

寄本よりミクロ研究班の研究テーマ・意義について説明がなされた。

続いて研究担当の三田・増原・鄭の順に具体的な研究テーマについて説明がなされた。

**概要**

- ・三田より研究テーマ「地域における持続可能性の追求と自治体環境政策に関する調査研究」に関する報告がなされた。

吉田：「経済性」という観点から研究を進め、人によって意識・認識が異なる「環境」のギャップをどう埋めていくか。研究を進めていく上でここに注意してもらいたい。

- ・増原より、研究テーマ「ごみ有料化の意思決定と市民」に関する報告がなされた。

寄本：経済回収性がないため一般企業はこれまで参画出来ていない。

一般企業が参画するためにどうしたらよいか。ここに研究の主題を置くとよい。

- ・鄭より、研究テーマ「廃棄物をめぐる自治体と地域住民団体・市民団体との関係」に関する報告がなされた。

寄本：各地域のごみ有料化に至る経緯を調べ何かしらの結論にもっていくのがよい。

## 2. サステナビリティ学について

吉田より I R 3 S 研究における今後の早稲田の目指す方向について提言がなされた。

サステナの中の一分野に特化としている各大学に対し、早稲田は全体を扱うと特徴性が出せる。早稲田の結論としては何によって環境社会が動いてきたのかを考える。

寄本より各研究に対しての提言がなされた。

サステナビリティ社会を支える 3つの要素「技術・経済・コミュニティ」  
そして何より住民の意識レベルが重要→どうやって住民自身が問題を解決しようとする意識にまでもっていけるのかをそれぞれ深く掘り下げる事が重要。

3. 次回日程                   : 2007年8月29日(水) 14時~16時  
    場所                     : 26号館(大隈タワー) 301号室